

発行・骨髓バンクを支援するいばらきの会 事務局 〒311-1415 茨城県鹿島郡旭村造谷 605 くらみ屋内  
TEL:090-8306-7111/FAX:0291-37-1425/E-mail:yamazaki@kurumiya.com  
ホームページ : <http://www.marrows.or.jp/ibaraki/>

日本骨髓バンク骨髓提供希望者(ドナー)登録者数 133,435人 県内 1,933人  
骨髓移植希望者(患者数)1,735人 県内 37人  
バンクを通じての移植例数:3,043例 県内 49例 採取数 46例 (2000年11月末現在)

## 3000例記念全国一斉街頭キャンペーンに参加

県業務課や水戸保健所職員の方5名と当会メンバー9名の合計14名という大勢の方の参加を得て、財団作成のアンディ・フグ写真&メッセージ入り特製リーフレットとティッシュ、県のパンフ、チャンス旧版やバンクニュースの在庫分などを折込んで配布し、通行する一般市民に骨髓バンクへの協力をPRしました。12時から県職員の方々と共に配布スタート、横断幕は固定禁止のため両端をメンバー2名が手に持って広場に立ち、拡声マイク不可により肉声での呼びかけに声を枯らしました。天候は幸い青空が広がり風も弱く、あまり寒さを感じない日和に恵まれました。14時のコアタイム終了時点で配布を一時中断して、参加者全員で黄門様像前で横断幕と共に記念撮影を行ない、その後引続き16時まで配布を続行しました。途中からは黄門像横でバルーンコーナーを急遽開設し、通行する子供たちにプレゼントしたり、バルーン募金などを行ないました。16時に終了片付けの後、近くのデニーズで有志による臨時定例会&忘年会を開催し、来年の活動計画などを話し合いました。(牛島)



水戸保健所や業務課の方々も寒空の中、熱心にチラシ配布

## 12月9日 財団全国大会参加報告

今年度の全国大会は「夢・いのち・愛～3000のドラマ、30万への希望～」と題して、古都京都で開催され、当会からは瀧さんと牛島の2名が参加しました。18時という遅い開始となりましたが、会場の京都国際会議場大ホールには200名以上の参加がありました。今年の大会進行は来賓挨拶を短くし、続く年次報告では各分野の担当者が入れ替りに壇上に立ち、短いコメントを述べるというスタイルを取ることで財団を構成する様々な顔を来場者に示すことができ好評でした。最後の記念イベントでは移植3000例を記念し、患者さん、ドナーさんから寄せられたエピソード、手紙、写真等が紹介されました。なかでもひととき印象的だったのは今年4月に挙式予定の移植患者さん同士のカップルで、国内第1号の当会事務局長夫妻からも音声テープによるお祝いのメッセージが披露され、会場からも暖かい祝福の拍手が贈られました。(牛島)

## 1月18日 県庁登録のお知らせ

かねてより開催をお願いしていた県庁舎内での県職員対象の登録会が業務課のご尽力により、下記の通り開催されることになりました。県庁舎での開催は昨年10月の県民まつりに引き続き2回目となりますが、今回は県庁職員を主対象としている事が特筆されます。これはドナー登録者数が低迷している現状を打破するため、県民に対して県行政の積極姿勢を強くアピールし、県民にドナー登録を呼びかける狙いが込められています。平日の開催ですが、ご都合のつく方はぜひご参加をお願いします。  
日時:2001年1月18日(木) チラシ配布:7時30分~8時30分 登録会:10時~15時  
集合: チラシ配布:7時 2Fロビー 登録会:9時 福利厚生棟2F  
参加できる方は事務局までご連絡下さい。

## いばらきツアーのお誘い

日頃お世話になっている近隣県のボランティア団体の皆さんと共に「骨髓バンクを考えない」楽しいツアーを当会主催で企画しました。当会会員の皆さんにも多数参加していただき、みんなでワイワイガヤガヤ楽しく過ごしましょう!参加できる方は事務局までご連絡下さい。詳細につきましては別紙を参照してください。

## 骨髓バンク MONTHLY REPORT 12月号

発行:(財)骨髓移植推進財団事務局 2000年12月18日

1. アンディ・フグさん、骨髓バンクキャンペーンで復活  
公共広告機構(AC)の骨髓バンクキャンペーンに、今年8月24日、急性骨髓性白血病(急性前骨髓球性白血病)のため亡くなった、格闘技「K-1」の96年王者、故アンディ・フグさんが起用されました。12月上旬からテレビ、ラジオで放映が開始され、まもなく新聞・雑誌にも登場します。このキャンペーンにあわせ、当財団のポスター、リーフレットにもフグさんを起用、フグさんは骨髓バンクの推進役として復活しました。ポスターは2種類(計8万枚)で、都道府県、市町村、保健所などに掲示、さらに郵政省のご協力により全国2万2000カ所の郵便局にも貼り出されています。リーフレット(50万枚)は、街頭キャンペーンや登録会、各種イベントで配布される予定です。ポスター、リーフレットとも好評で、ドナー登録者増加へむけて大きな期待が寄せられています。
2. 12月3日、全国一斉街頭キャンペーン実施  
12月3日(日)「全国一斉街頭キャンペーン」を実施しました。日本骨髓バンクを介した非血縁者間骨髓移植数が3000例に到達(11月16日)したことを記念して、3000人のドナーの方への感謝の思いと、ドナー登録者30万人をめざして行われたものです。「願いは、ド

ナー登録30万人！」の統一テーマのもと、全国の主要都市駅頭や繁華街など約100カ所、約1200人の方々（推計）にご参加いただきました。東京では「西武新宿ベベ公共広場」での開催セレモニーのあと、新宿、渋谷、千駄ヶ谷、錦糸町、吉祥寺、町田の駅前でキャンペーンを行いました。新潟県では県内25カ所でキャンペーンを行い、雨が降る悪天候のなか多くの方にご参加をいただくなど、全国のボランティアの皆さまにご協力をいただきました。心からお礼を申し上げます。

### 3. 都道府県庁舎でのドナー登録会、続々と実施へ

ドナー登録者の増加数は、昨年後半より低迷し、前年の半数程度まで落ち込んでいます。この状態を打破すべく、全国各地でさまざまな取り組みが行われています。なかでも注目されるのは行政の積極的な姿勢です。今年は、沖縄県、愛知県、福井県、栃木県、三重県の県庁舎で、ドナー登録会が開催されています。11月に当財団から各都道府県に「庁舎での職員ドナー登録会の開催のお願い」をしましたところ、12月28日千葉県庁、来年1月9日～10日愛知県庁、1月9日～11日福岡県庁、1月17日～19日東京都庁、1月18日茨城県庁での開催が決定しました。

### 4. コーディネート迅速化の取り組みのお知らせ

財団では、コーディネートの迅速化のため、コンピュータシステムの構築とコーディネート業務改革に取り組んでいます。いよいよ、来年1月中旬頃より、一部について実施されることになりました。登録責任医師の先生方には、詳細な内容を年内にあらためてご連絡いたしますが、ここでもおまな内容についてお知らせします。

毎週1回だったHLA適合検索が、毎日実施されます。各地区事務局で行われていた、ドナー候補者への問診票、提供意思確認書の送付、内容の確認作業が、初期コーディネート担当（関東事務局内）へ一元化されることとなります。また医師からの開始連絡を待たずに、検索後すみやかに、ドナー候補者へ問診票の送付を行います。同時並行ドナーコーディネーター数が、3人から5人に拡大されます。コーディネートの進捗状況のデータ入力により、各種報告が自動出力されます。これにより正確で迅速な情報の伝達が可能になります。また、ドナーコーディネートの進行状況を、毎週、登録責任医師に送信します。ドナー選択の適切な判断の一助となると考えられます。

### 5. 「骨髄バンク認定施設」、あらたに5施設を認定

財団認定の非血縁間骨髄移植・採取施設として、石川県立中央病院（免疫血液内科）、徳島大学医学部附属病院（小児科）、土浦協同病院（血液内科）、防衛医科大学校病院（第三内科）、九州大学医学部附属病院（第三内科）が追加認定されました。現在、認定移植施設は113施設（162診療科）認定骨髄採取施設は120施設となっています。

### 6. 「骨髄バンク推進全国大会2000in京都」開催

12月9日（土）18:10～20:00、京都市左京区の国立京都国際会館メインホールにて「骨髄バンク推進全国大会2000in京都」が開催され、全国各地から約500人の方々にご参加いただきました。1部の挨拶のあと、2部の年次報告ではそれぞれの担当者が、直接、「骨髄バンクの今、そして明日」について説明にあたりました。3部は骨髄移植3000例到達を記念して企画されたイベント。移植で元気になられた患者さん、ドナーを待っていらっしゃる患者さん、2度の提供体験をもつドナーの方のお話。お亡くなりになられた患者さんへの追悼。昨年おこなわれた全国キャラバンの話、全国で活動されているボランティアの方々への感謝。そうした内容を盛り込みました。大会の準備と運営には、日本造血細胞移植学会、京都府、京都市、地元の支援団体、NPO全国骨髄バンク推進連絡協議会などの方々にご協力をいただきました。関係者の皆さまに心からお礼申し上げます。

翌10日（日）には併催事業として、京都府立総合社会福祉会館（ハートピア京都）で医療講演会が開催されました。当財団主催の医療講演会をはじめ、「骨髄移植を必要とする病気について」と題して、7人の専門医師等による講演が行われ、約100人の参加者がありました。患者・家族の医療相談会（主催：関西骨髄バンク推進協会）も同時開催され、18組の方が相談を受けました。

### 7. コーディネーター研修会、地区普及広報委員研修会を開催

12月9日（土）、10日（日）の両日、国立京都国際会館および京都宝ヶ池プリンスホテルにおいて、第6回コーディネーターブラッシュアップ研修会が開催されました。145人のコーディネーターと財団事務局員、各委員会委員の関係者12人が参加し、1泊2日の合宿形式で行われました。目的は「コーディネーターとして視野を広げ、自覚を深めること」。主テーマとして「ドナーフォローアップ」を取り上げました。途中、学会の公開シンポジウムや全国大会へも参加。1日目は夜10時半終了、2日目は朝8時半開始と、密度の濃い研修会になりました。12月9日（土）13:00～16:00、国立京都国際会館で「地区普及広報委員研修会」が開かれ、地区普及広報委員20人、普及広報委員8人、財団事務局員4人が参加しました。各地でのドナー登録会の企画、運営、行政への働きかけを学び、後半は、4班に分かれて、ドナー登録者を増やすための対策についてグループ討論を行いました。

### 8. 大泉逸郎著「命よ孫よ」が発売されました

「孫」の大ヒットでNHK「紅白歌合戦」の出演が決定した大泉逸郎さんが、自らの骨髄移植のドナー体験と家族の絆を綴った書籍「命よ孫よ」が、光文社（電話 03-5395-8112）から発売されました（定価 1,600円＋税）。移植を受けた長男・健治さんの手記や、ドナー登録受付の窓口一覧も掲載されています。現在、病氣と闘っておられる患者さん、ご家族、ドナー登録をいただいているの方々への励ましとなる一冊です。この本の収益の一部は大泉さんのご厚意により当財団に寄付されます。当財団への問合せが激減しています。各団体や企業、サークル等の機関紙にドナー登録問合せ電話「財団フリーダイヤル0120-445-445」の掲載をお願いします。マスコミ取材の際にも掲載依頼をお願いします。

## 【事務局から御協力のおお願い】

**各皆様方のお住まいになっている各市町村や企業などでのイベントがありましたらお知らせください。骨髄バンクのPRに役立てたいと考えております。ご協力お願い致します。**

会費納入とご寄付をありがとうございました。（2000年11月18日～2001年1月9日現在 順不同敬称は略させていただきます。）

**寄付** 後藤カツ子 3,000円・山崎揚久・晃子 5,000円 **会費** 後藤カツ子

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費（年2,000円）を差し引いて掲載させていただきました。

### < 新年度年会費納入のおお願い >

**皆様からの会費は、大切な運動資金です。有効に活用致します。**

**また善意のご寄付もよろしくお願ひ申し上げます。**

**年会費 一口 2,000円 何口でも**

**骨髄バンクのボランティアを応援してください。**  
骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。

**ご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。**

**郵便振替口座名義 00110-3-127575**  
**加入者名義 骨髄バンクを支援するいばらきの会**